

理事長室から

木下 統晴



破傷風の患者数が多い日本

北里柴三郎顕彰2024年記念イベントが、今年1月から毎月、熊本大学医学部の同窓会（熊杏会）を中心に進められました。北里柴三郎博士は36歳で、世界で初めて破傷風菌の純粋培養に成功され、その翌年には血清療法を見出し、第1回ノーベル賞の候補となりました。本学では破傷風の研究を進められる生物毒素・抗毒素共同研究講座の高橋元秀先生と志多田千恵先生が、9月、10月、11月の3回にわたって、各々高校生、研究者、そして一般の皆様を対象にしたセミナーで講演されました。

破傷風などの疾病予防のため、赤ちゃんには定期接種として3種、4種、5種などの混合ワクチンが、生後2カ月から5カ月までに3回、1歳の時に1回、そして11歳から13歳の間で1回接種をすることになっています。これらにより極めて重篤な病である破傷風、百日咳、ジフテリアの患者数は激減しました。

現在、破傷風の年間患者数は、英国0、イタリア0、フランス2、カナダ3、オーストラリア4、ドイツ8、ロシア8、中国18、韓国24、アメリカ28、インド62名です。残念ながら衛生環境が整っているはずの日本は109名と、先進国の中では突出して多い患者数です（WHO2023年調査）。全体的に患者数自体は、少ないように思われるかもしれませんが、これは世界中でワクチンの接種で病気を抑え込んでいるからなのです。北里柴三郎博士が血清療法を見出された

時の世界人口は16億5000万人と現在の人口80億人の約4分の1です。その少ない人口でも毎年約100万人の方が破傷風で亡くなっていたと推定されています。

不思議なことですが、なぜ日本の破傷風患者は、韓国、インド、中国より多く、また、先進国の中でも患者発生が突出して多いのでしょうか。前者については、韓国、インド、中国は徴兵制があり、兵士の感染予防にワクチンを接種していることが功を奏していると考えられています。後者については、日本の56歳以上の方々は、国が定める定期予防接種導入前に生まれ、ワクチンを接種していないため、下記グラフのように破傷風の抗体がないことが理由の一つだと考えられます。

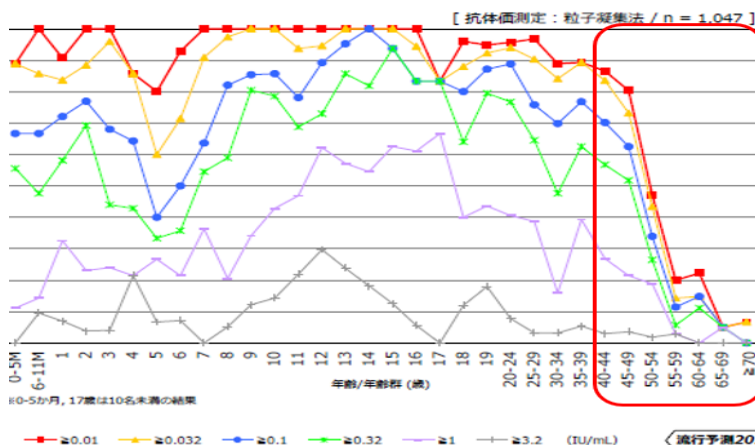
破傷風は、命にかかわる病気です。大半の患者さんは集中治療室で治療され、1千万円超の治療費が、かかります。ワクチンの接種は1回3000円から5000円程度、一生のうち何回か接種すれば、感染リスクを回避できます。このワクチンは、赤ちゃんや妊婦さんに接種してきた長い歴史と実績があり、安全性と有効性は確認されています。北里柴三郎博士の人類への貢献の大きさ、そしてVPD（Vaccine Preventable Diseases、ワクチンで予防可能な病気）として破傷風ゼロなども含めた予防医療、保健科学の重要性を、これからもしっかりと伝えてまいります。

まず、一步を踏み出そう！

年齢・年齢群別の破傷風抗体保有状況, 2018年^{※1}

～ 2018年度感染症流行予測調査より ～

※1 主に2018年7～9月に採取された血清の測定結果：2019年5月現在暫定値



峰松大会長（左）から表彰状を受けた後、写真撮影に応じる嶋村助教



九州理学療法士学会大会 2024 in 佐賀が11月9日（土）、10日（日）、佐賀市のSAGAアリーナで開催され、リハビリテーション学科理学療法学専攻の嶋村剛史助教の研究発表が優秀賞を獲得しました。

演題は「高齢健常者と退院準備期における股関節外傷術後患者の歩行動作速度とHarmonic Ratioの関係」。嶋村助教が大学院生時代から取り組んでいるテーマです。昨年度の九州理学療法士学会大会2023 in 熊本で発表した内容からデータ数を増やし、相互関係を解析したもので、今回は高齢健常者における動作の質を評価する必要性を報告しました。

嶋村助教は「同じセッションで発表された宮崎宣丞助教のフォローや座長の的確な質疑に恵まれました。また、共同演者として指導していただいた加藤浩教授（山形県立保健医療大学大学院）のお力添えがあつての優秀賞です」と語り「今後も感謝の気持ちを忘れずに様々な研究に取り組み、社会貢献できるよう精進していきます」とコメントしました。

（NL編集部）

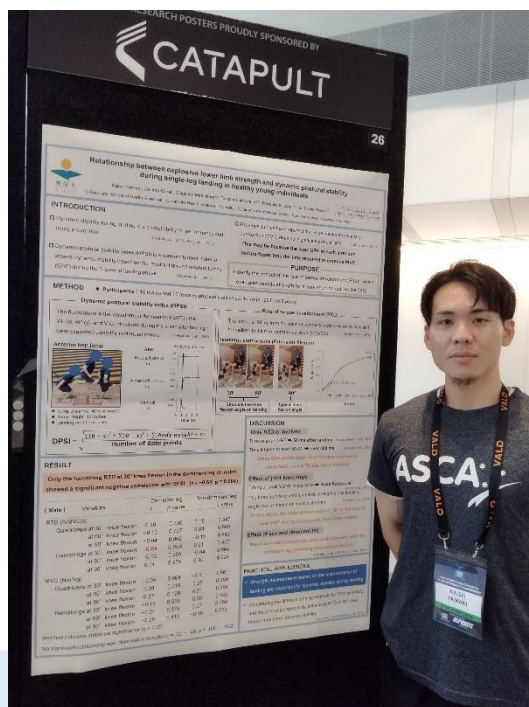
初の国際学会「充実した内容」八巻さん（^{大学院}_{2年}）発表

オーストラリア・ブリスベンで11月8～9日に開催された「ASCA International Conference on Applied Strength & Conditioning」で、本学大学院（リハビリテーション領域）2年生の八巻魁成さんが“Relationship between explosive lower limb strength and dynamic postural stability during single-leg landing in healthy young individuals（健常若年者における大腿部の瞬発的筋力と着地時の動的安定性の関係）”というテーマで発表しました。

ASCAは、アスリートのパフォーマンス向上や傷害予防に精通しているストレングストレーナーや医師、研究者などが一堂に会し、最新のスポーツ科学に基づいた議論が行われる国際学会です。今回、八巻さん単独での参加ということもあり、緊張の面持ちでしたが、大きなトラブルもなく学会を楽しむことが出来たそうです。

八巻さんは「初めての国際学会でとても緊張しましたが、ゼミ内で本番さながらの予演会や想定される質問対策をしっかりと準備して臨んだこともあり、充実した内容になりました。理学療法士としての発表者は、私だけということもあり、多くの他職種の方々と自分の研究テーマであるスポーツ傷害予防についてディスカッションできたことは、とても新鮮な経験であり、自身の研究を改めて見つめなおす貴重な時間となりました。今回の学会での経験を糧にこれからもスポーツ傷害に関する研究に取り組んでいきたいです」と語っていました。

八巻さんは、発表内容も踏まえて修士論文の作成に取り組む予定です。今回の研究は、松原誠仁教授、嶋村剛史助教、宮崎宣丞助教にも指導・支援をいただきました。（大学院リハビリテーション領域 本田啓太）



初の国際学会での発表に臨んだ八巻さん。「自身の研究を改めて見直す機会になりました」



2024年度日臨技九州支部医学検査学会（第58回）が11月9日（土）～10日（日）、鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで開催され、「臨床検査技師の未来」をテーマにした学会企画の学生フォーラムで、上妻 SG に所属する医学検査学科4年の上野佑さんが学生代表として講演を行いました。

上野さんは、「企業で活躍する臨床検査技師」と題して、「大学で学修した内容をどのように就職先で活かせるのか」といった問いを発しながら、自身が描く将来像などについて熱く語りました。講演後のパネルディスカッションでは、座長や参加者からの質問にも的確に回答。上野さんは、「他校の学生や実際に臨床で働いている先輩方のお話も聞くことができ、大変勉強になりました」と感想を口にしていました。

上野さんは、「輸血検査への応用を目指したヒト単球系白血病細胞株を用いた単球貪食試験の改良」という演題でも研究発表。上妻 SG 4年の西島朋香さん（共同演者：石本凌大さん、稲嶺沙妃さん、奥村尚優さん）も「人工肺入口圧上昇および人工肺内血栓形成予防のための基礎研究」という演題で発表しました。学生の発表は125演題中この2演題だけで、学会参加者からは「学生とは思えない発表でとても感動した」など多くのお褒めの言葉をいただきました。学会には本学の卒業生も多く参加・発表しており、ちょっとした同窓会のような場となりました。

（医学検査学科 上妻行則）

本学と阿蘇市、阿蘇中央高校が協同して取り組んでいる「阿蘇プロジェクト」の本年度2回目の体力測定を11月13日（水）、阿蘇中央高校で実施しました。

体力測定会は、同市在住の65歳以上の住民を対象に、フレイル予防に重要な「運動」「栄養」「社会参加」に関連する項目に関する測定を継続的に行うものです。6月の第1回測定会後、高校生と大学生が参加者に運動習慣や生活状況について確認する電話を3回（7月・9月・10月）入れるといった介入にも取り組んできました。

今回はリハビリテーション学科の学生43人と同校2年生69人が測定にあたりました。終了後、参加者には同校で栽培されているシクラメンがプレゼントされました。

次回は来年1月28日（火）、同市で2回の体力測定会と介入の結果を踏まえての成果報告会を開く予定です。（健康・スポーツ教育研究センター 中村祐貴）



高校生からシクラメンを手渡される
体力測定会の参加者

太陽にお祈りしてくれたこと

これまで多くの人に支えられてきた中のエピソードを一つ紹介させていただきます。

修士課程2年の冬、クラスで私だけ就職が決まっておらず苦戦していた時のことです。「修士課程での学びを活用してほしい、話を聞いてほしい」と、いったんは電話で断られたにもかかわらず、私はがん専門病院の看護部長さんの部屋を直接訪ねました。ありがたいことに看護部長さんは会ってくださいましたが、「採用は約束できない」という言葉も頂きました。

そして迎えた就職試験の日、決まっていなかった就職と進んでいない修論という状況に疲れ果て庭園のベンチで途方にくれ

ていた私の隣に、女性の患者さんが来られました。採用試験に来たことを話した時、その方がおっしゃったことは、「この看護師さんたち、忙しそうだけどとてもいい病院よ。あなたがこの病院に受かるように、今日、私が太陽にお祈りしてあげる」でした。

命がかかった病氣と闘っておられる患者さんからの言葉に心から驚き、同時に希望をもらったこと、今でも忘れません。こうやって、いつも様々な人の支えがあって歩いてきました。いただいたご恩をちゃんと返しきることができるかな...と思いながら、できることを一步一步の毎日です。



■校区住民とナイスショット！ 西里校区グラウンドゴルフ大会が11月23日（土）、本学グラウンドで行われ、学生13人、職員1人が校区グラウンドゴルフ協会の会員114人と共にプレーを楽しみました。グラウンドゴルフは専用の木製クラブでボールを打ち、スタートからホールポストまでの打数の少なさを競うスポーツです。上位入賞者は8ホールを17打ほどで回ります。初心者でもどんどん上達できるため、今年はホールインワン賞を獲得した学生もいました。大会は毎年春と秋に開催されています。地域の人たちも学生や職員との交流を楽しみにしていますので、ぜひご参加ください（地域連携委員会）



和気あいあいとした雰囲気の中でプレーする参加者たち

模擬授業を受講する天草拓心高校の生徒たち



■天草拓心高生が来学 天草拓心高校（天草市）の普通科及び食品科学科の生徒42人が11月26日（火）に本学を訪れ、キャンパス概要説明や模擬授業などを受けました。一行はレストランを利用した後、入試・広報課員による本学の概要、医療職についての説明を受けました。その後、就職・実習支援課、図書館、1号館の実習室などを見学し、医学検査学科の正代清光副学科長による模擬授業を受講しました。この機会が進路選択の一助となりましたら幸いです。（入試・広報課）

インフォメーション

週間行事予定（12月3日～12月9日）

12/7（土）	助産別科一般入試
12/7（土）	公衆衛生看護学専攻科推薦入試
12/8（日）	チャレンジ熊本大！
12/9（月）	クリスマスイルミネーション点灯式